

目 次

はじめに	目 次	〈論 考〉
I ふるさとの和紙……………1	内山紙 山中紙 上田・立岩・長瀬紙	山中紙と松代藩御用紙……………56
	小海紙 清水紙 宮本・松崎紙 美麻紙	「日本太一」の牛王宝印と生島足島神社の起請文……………58
	安坂・麻績紙 田立紙 笠原紙 下伊那紙	〈特別寄稿〉
II 和紙を漉く—その製造工程—……………15		「山中紙（かず紙）製法覚書」
III 生活の中の和紙……………20		宮下正次……………60
IV 下張り文書の世界……………28		〈和紙関係新聞記事スクラップ〉……………64
V 和紙から洋紙へ……………32		〈統計資料〉
VI さまざまな和紙……………35		和紙生産額及び職工数……………66
VII 仏教にはぐくまれた和紙……………38		明治前期和紙・楮産地一覧……………67
VIII 神と紙……………47		展示資料一覧……………69
IX 現代に生きる和紙—伝統と創造—……………54		主な参考文献 協力者一覧……………71

凡 例

1. この図録は平成12年8月5日から9月15日までを会期とする特別展「風土がはぐくんだ信濃の和紙」の展示図録である。
2. 図録の番号は展示資料一覧と一致するが、展示の順序を示すものではない。
3. 図録掲載資料は展示資料の一部である。また、会期中に一部展示替えを行う。
4. 番号の前につけた◎は重要文化財・重要有形民俗文化財、◎県指定文化財、○は市指定文化財を示す。
5. 本図録には、1973年まで山中紙を漉いていた戸隠村宮下正次氏から、途絶えてしまった山中紙の製法について御寄稿いただいた。
6. 本図録の編集、執筆は本館学芸員降幡浩樹が担当し、館員がこれを補助した。
7. 本書に掲載した写真は、提供を受けたものについてはそれぞれ提供者を明示し、それ以外のもは本館学芸員山口明、降幡浩樹が撮影した。

はじめに

私たちは紙なしでは1日も生活できません。それは、長い間日本の風土に適した和紙とともに暮らしてきたからです。

信州は古くから和紙の産地として知られていました。冬の長くて厳しい信州では、冬期間の内職として様々な地場産業が発達してきました。和紙もその一つです。

和紙文化の開花期といわれる江戸時代には、信州各地の風土を利用した特産の和紙が漉すかれていました。内山の障子紙や上田の鼻紙、飯田の元結などはその代表です。

しかし、現代では各地の伝統的な和紙の産地はどこも需要と後継者不足に悩み、途絶えてしまった産地もあります。

今回の特別展では、私たちの生活を用と美の両面で豊かにした信濃の各和紙産地の歴史やその幅広い用途を振り返ります。

今回の展示が、和紙のよさを再認識し、地域振興や伝統産業の見直と発展に寄与できれば幸いです。

最後に、貴重な和紙のご出品にご協力いただいた皆様をはじめ、ご指導いただきました方々に対して厚く御礼申し上げます。

平成12年8月5日

長野市立博物館長